

国語
1

6年生の大切・言葉の宝箱



1

□の言葉は、教科や社会生活の中で使われる言葉です。教科別になかまわけをし、記号で答えましょう。

ア 割合	イ 要旨	ウ 体積
エ 国会	オ 導線	カ 蒸発
キ 貿易	ク 構成	

〈国語〉 〔 〕 と 〕

〈社会〉 〔 〕 と 〕

〈算数〉 〔 〕 と 〕

〈理科〉 〔 〕 と 〕

2

□の言葉は人物について説明するときや、感想を伝えるときに使う言葉を集めています。テーマごとになかまわけをし、記号を書きましましょう。

ア 晴れやか	イ 誠実	ウ あいまい
エ 未熟	オ 具体的	カ 解放感

〈どんな人物かを表す言葉〉 〔 〕 〕

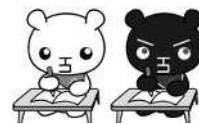
〈どんな物や事がらかを表す言葉〉 〔 〕 〕

〈心情を表す言葉〉 〔 〕 〕

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				／10

国語
1

6年生の大切・言葉の宝箱



1

□の言葉は、教科や社会生活の中で使われる言葉です。どの教科にかかわる言葉でしょうか。もっともふさわしいものを二つずつ選び、記号で答えましょう。(両解)

〈国語〉 〔イ〕〔ク〕

〈社会〉 〔エ〕〔キ〕

〈算数〉 〔ア〕〔ウ〕

〈理科〉 〔オ〕〔カ〕

ア 割合	イ 要旨	ウ 面積
エ 国会	オ 導線	カ 蒸発
キ 貿易	ク 構成	

2

□の言葉は人物について説明するときや、感想を伝えるときに使う言葉を集めています。テーマごとになかまわけをし、記号を書きましよう。(各解)

〈どんな人物かを表す言葉〉

〔イ〕〔エ〕

〈どんな物や事がらかを表す言葉〉

〔ウ〕〔オ〕

〈心情を表す言葉〉

〔ア〕〔カ〕

ア 晴れやか	イ 誠実	ウ あいまい
エ 未熟	オ 具体的	カ 解放感

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				／10

国語
2

漢字の形と音・意味



1 次の文の()に合う言葉を [] から書きま
しょう。

「学校」「効果」の——線部は、「コウ」と読み、
「交」の部分が共通しています。

このように同じ部分をもつ漢字は、その

[] も共通することがあります。

また、「大腸」「大脳」の——線部の漢字は、
同じ「月」の部分をもち、体に関係のある意味を
表します。

このように、同じ部分をもつ漢字は
[] がつながることがあります。

意味・音・言葉

2 次の□に当てはまる漢字を、それぞれ []
を選び、()に書きましょう。(各解)

① カン
水道□がはれつする。()
警察□になる。()
図書□で調べものをする。()

官 管 館

② ショウ
父母は、□和生まれだ。()
居間の□明をつける。()
友達を家に□待する。()

照 招 昭

3 次の漢字の中で「人」につながりのあることを表す部分
をもつものを二つ選んで○をつけましょう。(各解)

ア () 機 イ () 弱

ウ () 他 エ () 仲

オ () 物

組	番 名前	かかった時間	とけた数
			／10

国語
2

漢字の形と音・意味



1 次の文の（ ）に合う言葉を から書きましよう。

「学校」「効果」の——線部は、「コウ」と読み、「交」の部分が共通しています。

このように同じ部分をもつ漢字は、その

音

も共通することがあります。

また、「大腸」「大脳」の——線部の漢字は、同じ「月」の部分をもち、体に関係のある意味を表します。

意味

このように、同じ部分をもつ漢字は

意味・音・言葉

2 次の□に当てはまる漢字を、それぞれ から選び、（ ）に書きましよう。

① カン
水道□がはれつする。 (管)
警察□になる。 (官)
図書□で調べものをする。 (館)

官 管 館

② ショウ
父母は、□和生まれだ。 (昭)
居間の□明をつける。 (照)
友達を家に□待する。 (招)

照 招 昭

3 次の漢字の中で「人」につながりのあることを表す部分をもつものを二つ選んで○をつけましよう。

ア () 機 イ () 弱

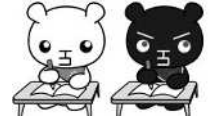
ウ (○) 他 エ (○) 仲

オ () 物

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				／10

国語
3

季節の言葉 (春)



1 次の文に合う言葉を から選び、その番号を書きましよう。

日本では、こよみの上で季節を二十四に区切っていました。これを()といひます。
また、()から()の前日までを「春」といひます。

- 1 立秋 2 二十四節気
3 立冬 4 立春 5 立夏

2 次の俳句の季語を書きぬき、その季節を答えましよう。

① 立春や月の兎は耳たてて

季語 () 季節 ()
星野 椿

② 清明や街道の松高く立つ

季語 () 季節 ()
桂 信子

3 次の言葉は、春から夏へと向かっていくころの季節の様子を表しています。説明の文を選んで()に記号を書きましよう。

- ① 清明 () ② 春分 ()
③ 雨水 () ④ 穀雨 ()
⑤ 啓蟄 ()

ア 四月二十日ごろ。いろいろな穀物をうるおし、芽を出させる春の雨という意味。
イ 四月五日ごろ。氣候がしだいに温暖になり、すがすがしく明るい空気に満ちあふれるころ。
ウ 三月二十一日ごろ。昼と夜の長さがほぼ等しくなる。春のひがんの中日である。
エ 二月十九日ごろ。ふる雪が雨に変わり、深く積もつた雪も解け始める。
オ 三月六日ごろ。地中で冬眠していた虫がはい出てくるころという意味

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				／10

国語
3

季節の言葉 (春)



1 次の文に合う言葉を から選び、その番号を書きましよう。

日本では、こよみの上で季節を二十四に区切っていました。これを (2) といいます。また、(4) から (5) の前日までを「春」といいます。

- | | |
|------|---------|
| 1 立秋 | 2 二十四節気 |
| 3 立冬 | 4 立春 |
| 5 立夏 | |

2 次の俳句の季語を書きぬき、その季節を答えましよう。(両解)

① 立春や月の兎は耳たてて

季語 (立春) (季節) (春)
星野 椿

② 清明や街道の松高く立つ

季語 (清明) (季節) (春)
桂 信子

3 次の言葉は、春から夏へと向かっていくころの季節の様子を表しています。説明の文を選んで () に記号を書きましよう。

- ① 清明 (イ) ② 春分 (ウ)
③ 雨水 (エ) ④ 穀雨 (ア)
⑤ 啓蟄 (オ)

ア 四月二十日ごろ。いろいろな穀物をうるおし、芽を出させる春の雨という意味。
イ 四月五日ごろ。気候がしだいに温暖になり、すがすがしく明るい空気に満ちあふれるころ。
ウ 三月二十一日ごろ。昼と夜の長さがほぼ等しくなる。春のひがんの中日である。
エ 二月十九日ごろ。ふる雪が雨に変わり、深く積もった雪も解け始める。
オ 三月六日ごろ。地中で冬眠していた虫がはい出てくるころという意味

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				／10

国語
4

話し言葉と書き言葉



1 話し言葉と書き言葉の説明として合う言葉を
からすべて選び、 に記号を書きま
しょう。

① 話し言葉（音声で表す言葉）

② 書き言葉（文字で表す言葉）

ア その場に相手がいるので、表現したとき、まちがいをすぐ
に直せる。
イ 実物を示しながら、こそあど言葉で表すことができる。
ウ すぐに消えずに残るので、見直してから伝えるように
する。
エ ふつう共通語で表現し、語順や構成を整える。
オ 間の取り方などで、自分の気持ちを表すことができる。

2 次の内容を、全校に放送します。―線の部分を
適切な表現に直して、 に書きましょう。

図書委員会から、お知らせします。
来週の木曜日の昼休みに、絵本の読み聞かせの会を
するんだ。きょうみのある人は、ぜひ図書室に来てね。

① するんだ ↓

② 来てね ↓

3 次の内容を、手紙で地域の人に伝えます。―線の部分
を適切な表現に直して、 に書きましょう。

来月、体育館で、六年生が楽器の演奏会を行う。

地域の方たちがよく知っている曲をいっぱい

演奏する。ききたい人は、事前に学校に申し込み

が必要だ。

① 行う ↓

② いっぱい ↓

③ 演奏する ↓

④ 聞きたい人 ↓

⑤ 必要だ ↓

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				9

国語
4

話し言葉と書き言葉



1 話し言葉と書き言葉の説明として合う言葉を
からすべて選び、 に記号を書きま
しょう。(完答)

① 話し言葉(音声で表す言葉)

アイオ

② 書き言葉(文字で表す言葉)

ウエ

ア その場に相手がいるので、表現したとき、まちがいをす
ぐに直せる。

イ 実物を示しながら、こそあど言葉で表すことができる。
ウ すぐに消えずに残るので、見直してから伝えるよう
にする。

エ ふうふう共通語で表現し、語順や構成を整える。
オ 間の取り方などで、自分の気持ちを表すことができる。

2 次の内容を、全校に放送します。―線の部分を
適切な表現に直して、 に書きましよう。

図書委員会から、お知らせします。

来週の木曜日の昼休みに、絵本の読み聞かせの会を
するんだ。きょうみのある人は、ぜひ図書室に来てね。

① するんだ

します

② 来てね

来てください

3 次の内容を、手紙で地域の人に伝えます。―線の部分
を適切な表現に直して、 に書きましよう。

来月、体育館で、六年生が楽器の演奏会を行う。

地域の方たちがよく知っている曲をいっばい

演奏する。ききたい人は、事前に学校に申し込み

が必要だ。

① 行う

行います

② いっばい

たくさん

③ 演奏する

演奏します

④ 聞きたい人

聞かれたい方 (お聞きになりたい方)

⑤ 必要だ

必要です

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				9

国語
5

文の組み立て



① 文の中の主語と述語の関係を見つけ、例にならって、それぞれの文を書き直しましょう。

(例)

ぼくが 植えた 木が 育った。

ぼくが 木を植えた。

その木が 育った。

① 私が かいた 絵が 入賞した。

Blank boxes for writing the sentence from the example above.

② 兄が くれた ペンは とても 書きやすい。

Blank boxes for writing the sentence from the example above.

③ 立派な 競技場が 完成し、人々は 喜んだ。

Blank boxes for writing the sentence from the example above.

④ まぼろしの 料理研究家が 作った シチューを 食べた 森田さんが 取材に 応じた。

Blank boxes for writing the sentence from the example above.

組	番 名前	かかった時間	とけた数
			/ 4

国語
5

文の組み立て



① 文の中の主語と述語の関係を見つけ、例にならつて、それぞれの文を書き直しましょう。(両解)

(例)

ぼくが 植えた 木が 育った。

ぼくが 木を植えた。

その木が 育った。

① 私が 書いた 絵が 入賞した。

私が 絵をかいた。

その絵が 入選した。

② 兄が くれた ペンは とても 書きやすい。

兄が ペンをくれた。

そのペンは とても書きやすい。

③ 立派な 競技場が 完成し、人々は 喜んだ。

立派な競技場が 完成した。

人々は その(競技場の) 完成を喜んだ。

④ まぼろしの 料理研究家が 作った シチューを食べた 森田さんが 取材に 応じた。

まぼろしの料理研究家が シチューを作った。

そのシチューを食べた森田さんが 取材に応じた。

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				／ 4

国語
6

季節の言葉 (夏)



1 次の文のに合う言葉を から選び書きましよう。

こよみの上では、() 「五月六日ごろ」から () 「八月八日ごろ」の前日までを、() とい
います。

秋 ・ 夏
立秋 ・ 立夏

2 次の俳句の季語を書きぬき、その季節を答えましよう。

1 小満のみるみる涙湧く子かな

やまにし まさこ
山西 雅子

季語 () 季節 ()

2 芒種はや人の肌さす山の草

たかば しゅぎまう
鷹羽 狩行

季語 () 季節 ()

3 次の言葉は、夏から秋へと向かっていくころの季節の様子を表しています。説明の文を選んで () に記号を書きましよう。

1 立夏 ()

2 小満 ()

3 芒種 ()

4 夏至 ()

5 小暑 ()

ア 五月六日ごろ。こよみの上で夏が始まる日。

イ 六月二十一日ごろ。一年の中で昼が最も長く夜が短い。昔のこよみでは、夏の真ん中とされた日。

ウ 七月七日ごろ。この日から暑中(夏の暑さがさかなな時期)に入り、暑さが増して日。つゆが終わりに近づくころ。

エ 五月二十一日ごろ。立夏から十五日目に当たる日。容陽気がさかんととなり、草木が成長して満ちてくるという意味。

オ 六月六日ごろ。「芒」とは、いねや麦などの実のからにある、はりの形をした毛のことで、芒のある穀物の種をまく時期のころ。

組	番 名前	かかった時間	とけた数
			／10

国語
6

季節の言葉 (夏)



1 次の文に合う言葉を から選び書きましよう。

こよみの上では、(立夏)「五月六日ごろ」から(立秋)「八月八日ごろ」の前日までを、(夏)とい

秋 ・ 夏
立秋 ・ 立夏

2 次の俳句の季語を書きぬき、その季節を答えましよう。(両解)

1 小満のみるみる涙湧く子かな

季語 (小満) 季節 (夏)
山西 雅子

2 芒種はや人の肌さす山の草

季語 (芒種) 季節 (夏)
鷹羽 狩行

3 次の言葉は、夏から秋へと向かっていくころの季節の様子を表しています。説明の文を選んで()に記号を書きましよう。

- ① 立夏 (ア)
- ② 小満 (エ)
- ③ 芒種 (オ)
- ④ 夏至 (イ)
- ⑤ 小暑 (ウ)

ア 五月六日ごろ。こよみの上で夏が始まる日。

イ 六月二十一日ごろ。一年の中で昼が最も長く夜が短い。昔のこよみでは、夏の真ん中とされた日。

ウ 七月七日ごろ。この日から暑中(夏の暑さがさかな時期)に入り、暑さが増して日。つゆが終わりに近づくころ。

エ 五月二十一日ごろ。立夏から十五日目に当たる日。容陽気がさかんととなり、草木が成長して満ちてくるという意味。

オ 六月六日ごろ。「芒」とは、いねや麦などの実のからにある、はりの形をした毛のことで、芒のある穀物の種をまく時期のころ。

組	番	名前	かかった時間	とけた数
				10